

戦争法の発動ストップから廃止へ

金安 弘

はじめに

昨年11月7日、翁長雄志沖縄県知事の夫人、樹子さんがキャンプシュワブ前の座り込みに参加し、座り込む人々に語った。「夫は何が何でも辺野古に基地を造らせない。万策尽きたら夫婦と一緒に座り込むことを約束している」と、丸山悦子さんから電話があった。「座り込む人はみんなその言葉を知っている。毎日機動隊にごぼう抜きされ、私も踏ん張ったせいで名古屋に帰ってきたら、そこらじゅうがまだ痛いよ。」翁長夫婦が座り込みに入ったら、みんなで辺野古に押しかけよう。いつでも行ける準備だけはしておこう。

安倍政権の潮目の変化

1月4日に始まった国会。安倍首相は、7月の参議院選挙に焦点を合わせ「3分の2の勢力で改憲を目指す」と繰り返している。憲法の3原則を維持しつつ、「緊急事態条項を加憲する」と発言。この条項自体が憲法違反条項になるという発想を持たない。9条と集団的自衛権が両立できないことと同じだ。その発想の根本には、日本国憲法はアメリカが作った紙切れに過ぎない。日本の行政府が主体的に解釈し、実行すればよい。国民はそれを選挙で認めてくれる。7月の参議院選挙で勝利し、それを証明する。公明党への配慮、中国脅威論、高齢者へのバラマキ、アベノミクスの幻想の維持。マスコミへの干渉。そしてサミット議長国としての演出、そのまま7月の参議院選挙へ。

しかし、国会3週目にして、下げ止まらない株価、円高、そして安倍内閣の中枢たる甘利経済再生大臣の収賄問題の発覚。ダボス会議、TPP交渉、サミットともう他の参加国は相手にしてくれない。安倍政権の潮目の変化という以外にはない。私たちの問題意識「戦争法の発動ストップから廃止へ」の道を7月の参議院選挙の野党側の勝利で獲得する。いま、実現可能性のある「よりましな選択とは何か」と考えれば、野党統一候補を生み出す以外にありません。この潮目の変化をチャンスとして受け止め、「戦争ストップ！野党は共闘！」の声に合流し、安倍政権の暴走を止めるために動き続けましょう。

自衛隊のジブチ基地に注目を

1月12日、安倍首相は国会で「自衛隊ジブチ拠点を一層活用するための方策を検討している。」と発言。海賊対処のための基地建設であったはずが、海賊事件はもうゼロ。それにも拘らず「いっそう活用する」とは「対テロ戦争」の拠点であるアメリカ軍への支援基地として活用する以外にはない。自衛隊のジブチ基地に隣接するレモニエ米軍基地は、無人攻撃機プレデターやリーパーを使ってソマリア沿岸



のイエメンに対して攻撃をしている一大拠点だ。

ジブチ共和国は、かつてフランスの植民地

であり、フランス外人部隊が建設した基地がもとのキャンブレモニエである。9.11以降、アメリカ海兵隊が最初に派兵され、やがて東部アフリカとアラビア半島の「テロの脅威」に対応するための統合戦基地となっている。地図でもわかる通り、ジブチ、アンプリ国際空港の単一滑走路をフランス軍や米軍と共に自衛隊は共有させてもらっている。フランス軍や米軍が「対テロ戦争」の一大拠点として使っている隣に自衛隊の基地がある。「防衛大綱」にすでにジブチ基地の「いっそうの活用」とあり、戦争法の成立により、「対テロ戦争」支援基地化してしまう。

海上自衛隊のP3C対潜哨戒機の常駐だけでなく、航空支援輸送となれば小牧基地のC130輸送機の常駐化の可能性が高い。

昨年、海上自衛隊はアデン湾で韓国海軍との共同訓練を行っている。現実の自衛隊は「専守防衛」を超えて活動をしている。戦争法が施工されることによって、海外での武力行使の危険性が一段と高くなってくる。自衛隊ジブチ基地の機能と目的が、日本をよりいっそう戦争に近づけさせていく。

参議院選挙は、その日本をストップさせる大きな目標のひとつとして私たちの前にある。海外で越年をした自衛隊員は、南スーダン350人、ジブチ基地560人、合わせて910人。一日も早く撤退させねばなりません。そのために、今年も「海外派兵反対」の声をみなさんと一緒にあげていきましょう。